

【調査票】

各病院における2025年までのハード整備意向調査 調査票

病院名	長浜市立湖北病院	担当者名	村上 義幸
担当部署	事務局管理課	電話番号	0749-82-6141
E-mail	murakami@kbbk.jp		

2022年～2025年までの間に、地域医療介護総合確保基金を活用し、地域医療構想の達成に向けたハード整備を実施する意向がある場合記入してください。（少しでも検討段階のものがあれば可能な限りご記入ください。）

1 整備予定がある場合の整備予定年度、具体的な内容 ↓複数年の場合記載

①整備予定年度 2025 年度 ～ () 年度 区分1-2の質問項目を記載

(1)整備内容 (2)整備面積 (㎡) (3) (病床転換・削減の場合) 病床数 (床) (4)総事業費 (千円)

整備内容	整備面積 (㎡)	病床数 (床)	総事業費 (千円)
ア 病床転換	→	床 →	千円
イ 病床削減	→	床 →	千円
ウ 再編統合	→	↑ 病床機能を記載 ↑ 病床数を記載	千円
エ その他	→	↑ 病床数を記載	千円

該当するものに○ ↑ 整備面積を記載
↑ 金額を記載
転換先の機能について記載してください。

(5) 「ウ 再編統合」に○をした場合、その具体的な内容を次に記入してください。

(6) 「エ その他」に○をした場合、その具体的な内容を次に記入してください。

湖北圏域の地域医療構想に沿ってケアミックス病院としての機能を果たすべく整備を行う。
 現行140床（一般83床、療養57床） ⇒ 整備予定130床
 総事業費：未定

※「ウ 再編統合」、「エ その他」を選択した場合で(5)・(6)の記入欄に記載できない場合は、記入欄に「別紙のとおり」と記載いただき、別紙で内容が分かる資料を添付してください。

②整備予定年度 () 年度 ～ () 年度 ↓複数年の場合記載

(1)整備内容 (2)整備面積 (㎡) (3) (病床転換・削減の場合) 病床数 (床) (4)総事業費 (千円)

整備内容	整備面積 (㎡)	病床数 (床)	総事業費 (千円)
ア 病床転換	→	床 →	千円
イ 病床削減	→	床 →	千円
ウ 再編統合	→	↑ 病床機能を記載 ↑ 病床数を記載	千円
エ その他	→	↑ 病床数を記載	千円

該当するものに○ ↑ 整備面積を記載
↑ 金額を記載
転換先の機能について記載してください。

(5) 「ウ 再編統合」に○をした場合、その具体的な内容を次に記入してください。

(6) 「エ その他」に○をした場合、その具体的な内容を次に記入してください。

※「ウ 再編統合」、「エ その他」を選択した場合で(5)・(6)の記入欄に記載できない場合は、記入欄に「別紙のとおり」と記載いただき、別紙で内容が分かる資料を添付してください。

③整備予定年度 () 年度 ～ () 年度 ↓複数年の場合記載

(1)整備内容 (2)整備面積 (㎡) (3) (病床転換・削減の場合) 病床数 (床) (4)総事業費 (千円)

整備内容	整備面積 (㎡)	病床数 (床)	総事業費 (千円)
ア 病床転換	→	床 →	千円
イ 病床削減	→	床 →	千円
ウ 再編統合	→	↑ 病床機能を記載 ↑ 病床数を記載	千円
エ その他	→	↑ 病床数を記載	千円

該当するものに○ ↑ 整備面積を記載
↑ 金額を記載
転換先の機能について記載してください。

(5) 「ウ 再編統合」に○をした場合、その具体的な内容を次に記入してください。

(6) 「エ その他」に○をした場合、その具体的な内容を次に記入してください。

※「ウ 再編統合」、「エ その他」を選択した場合で(5)・(6)の記入欄に記載できない場合は、記入欄に「別紙のとおり」と記載いただき、別紙で内容が分かる資料を添付してください。

※整備予定年度が多岐にわたる場合は、適宜、11～22行をコピーし、追記いただくようお願いします。

質問は以上となります。御協力いただき、ありがとうございました。

令和5年度（2023年度）地域医療介護総合確保基金事業（医療分）提案調査票

事業の名称		脳損傷者に対する自動車運転適性評価への自動車運転シミュレーターの導入
事業の実施主体		市立長浜病院
対象圏域		湖北圏域
事業期間		令和5年4月1日～
事業の分類	(大)	I 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業
	(中)	(1) 医療提供体制の改革に向けた施設・設備の整備 等
	(小)	5 病床の機能分化・連携を推進するための基盤整備
事業の概要（積算）		<p>当院または近隣病院で急性期診療を終えて当院回復期リハビリテーションを行っている患者について、滋賀県公安委員会より適性検査を行う医師として指定されている脳神経外科小室太郎医師の指導の下、①運転に関わる高次機能の評価を病気診断用の方法によって行う。加えて、現在は静止した自動車での運動機能としての動作評価を行うのみだが、運転シミュレーターを導入して運動機能としての動作評価だけでなく、自動車運転可否判断基準に含まれる「注意障害」も自動車運転シーンの中で評価できるようにする。②可否境界領域の患者には、危険を伴わない自動車運転訓練として活用できるかもしれない。（現在は入院中に自動車運転訓練はできないのが実情）③本システムに関して協力関係にある自動車学校および運転免許センターの担当者と定期的にカンファレンスを行う。（現在はそれぞれの担当者と一対一で連絡を取り合うのみとなっている）④本プログラムに参加した患者に運転再開後の状況などについてアンケートを取って結果の評価を行っているが、ここから出てきた課題について対応を検討するなど、いわゆるPDCAサイクルを回し続けることが重要と考えている。⑤行政の広報・学会などで結果を報告し、社会の評価・批判を受けることも計画している。</p> <p>《積算》 本体・保守料あわせて1,650,000円（消費税込み、詳細別紙見積書のとおりに）</p>
現状と課題、事業の目的		滋賀県が全国トップクラスの健康寿命を保つためには、高齢者の社会性を維持する必要がある。これは特に病後において重要であるが、中でも自動車運転ができるかどうかは最重要である。しかるに、病後の自動車運転に関わる適性診断をするための基準が曖昧であるため、また社会が病気を背景とした自動車事故に厳しい現状もあるため、多くの医療機関では「怪しいものはクロ」型の判断がなされているようである。湖北地域の健康寿命を保つため、「自動車運転に関する適性を維持している人ならば、自動車運転ができる湖北地域」であるために、病後の自動車運転の可否判断について当院が病気の診断という面から綿密に評価し、自動車学校が教習所内で運転実技評価を行い、これを総合して作成された診断書を基に運転免許センターで最終的な可否判断をするという湖北地域社会の連携が数年前から実現されており、このシステムの各ステップについて更なる充実が強く望まれる。
地域医療構想との関係性		当院は救急診療・急性期診療に加えて、湖北（および湖東）地域唯一の回復期リハビリテーション病棟を運営している。自動車運転に関わる適性の診断をプログラムとして行っているのも、湖北（および湖東）地域では当院のみである。このため脳神経系疾患の急性期診療を近隣の脳神経外科・神経内科で受けた患者が、当院に回復期リハビリテーション目的で入院してくる現在の流れを活かして、「自動車運転に関する適性を維持している人ならば、自動車運転ができる湖北湖東地域」の実現に寄与したい。
事業の成果・効果		車社会である湖北圏域では、自動車運転再開の可否が脳損傷者の社会復帰において非常に重要である。自動車運転シミュレーターを用いて適切な訓練・評価を行うことによって、運転に関する適性があると診断された患者が運転を再開できるようにし、社会復帰を後押しすることができる。また、自動車運転非適格者も見極めることができ、車社会の中において、交通安全の向上、交通事故減少にも貢献できる。
達成目標	目標とする事項	本事業について地域に広く知らしめて、評価対象者の増加を目指す。自動車運転の再開を希望する患者に、運転シミュレーターを用いて自動車運転適性評価を行う。
	現在値	本事業について広報活動は実施しておらず、評価対象者は最近4か年で平均値25人。運転動作の評価は静止した実車で実施。シミュレーターによる評価実績なし。
	目標数値	広報活動を行った上で、想定する評価対象者は年間30人。運転再開希望者全員に自動車運転シミュレーターを用いた自動車運転適性評価を行う。